



Title	Father-child bonding among Japanese fathers of infants: A municipal-based study at the time of the 4-month child health checkup( 内容・審査結果要旨 )
Author(s)	吉田, 和樹
Citation	
Issue Date	2019-09-30
URL	<a href="http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1047">http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1047</a>
Rights	Fulltext: This is the pre-peer reviewed version of the following article: "Infant Ment Health J. Epub ahead of print", which has been published in final form at <a href="https://doi.org/10.1002/imhj.21940">https://doi.org/10.1002/imhj.21940</a> . This article may be used for non-commercial purposes in accordance with Wiley Terms and Conditions for Use of Self-Archived Versions.
DOI	
Text Version	ETD

# 論文内容要旨

しめい 氏名	よしだかずき 吉田 和樹
学位論文題名	Father-child bonding among Japanese fathers of infants: A municipal-based study at the time of the 4-month child health checkup 乳児を持つ父親のボンディング：4 か月児健康診査での調査
<p><b>背景</b></p> <p>保護者のボンディングは乳幼児虐待に影響することから育児支援において重要である。育児支援の対象は母親と子を中心であったが、近年父親支援も重視されはじめた。母親のボンディングの知見は蓄積されているものの、父親のボンディングに関する知見は乏しい。本研究の目的は乳児を持つ父親のボンディングの因子構造、下位尺度に関連する背景要因、父親のボンディングと育児状況の関連を明らかにすることである。</p> <p><b>方法</b></p> <p>福島市の4 か月児健康診査を2017 年10 月から2018 年3 月に受診予定の児を持つ父親を対象とし、アンケートを郵送して、4 か月児健康診査受診時に回収した。両親・児の特徴、母親の育児状況については健診票から転記した。赤ちゃんへの気持ち尺度(The mother-to-infant bonding scale, MIBS-J) を用いて探索的因子分析、確証的因子分析を行った。次いで、父親のボンディングの下位尺度を目的変数とし、親子の背景要因を説明変数としたポワゾン回帰分析を行った。多変量解析には、単変量解析で有意だった項目と出生順位を投入した。さらに、育児状況を目的変数、ボンディングの下位尺度を説明変数、ボンディングに関連が認められた背景要因と出生順位を投入した多重ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p><b>結果</b></p> <p>父親のボンディングの下位尺度は、怒り(2 項目, Cronbach's alpha: 0.78) と低い愛情(5 項目, Cronbach's alpha: 0.84) の2 因子であった。多変量解析において怒りに関連した背景要因は、仕事の量的負担(<math>\beta</math>: 0.38, <math>p=0.004</math>) と父親の気持ちの状態不良(<math>\beta</math>: 0.55, <math>p=0.006</math>) であった。低い愛情に関連があった背景要因は、父親の年齢(<math>\beta</math>: 0.30, <math>p=0.04</math>)、父親の気持ちの状態不良(<math>\beta</math>: 0.61, <math>p&lt;0.001</math>)、家庭問題人間関係(<math>\beta</math>: 0.42, <math>p&lt;0.001</math>) であった。父親のボンディングの下位尺度の両方に有意な関連があった育児状況は、父親の育児の自信であった。低い愛情には、父親の育児参加しない、平日および休日の育児家事関連時間が短いとの有意な関連も認められた。</p> <p><b>考察</b></p> <p>父親のボンディングは怒りと低い愛情から構成されており、育児状況に関連していた。父親のボンディングを高めるためには、父親自身の気持ちの状態だけでなく、家庭での人間関係や職場環境の状況も考慮した育児支援が必要である。</p>	

※Journal of Epidemiology に現在投稿し、2 回目査読対応中

# 学位論文審査結果報告書

令和元年 7月 4日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

## 【審査結果要旨】

氏名 吉田 和樹

所属 国際地域保健学分野 総合科学教育研究センター

学位論文題名

Father-child bonding among Japanese fathers of infants: A municipal-based study at the time of the 4-month child health checkup

乳児を持つ父親のボンディング：4か月児健康診査での調査

保護者のボンディングは乳幼児虐待に影響することが報告されており、育児支援において重要な課題である。ボンディングとは母親と子供の間の感情的な結びつきや絆というように定義されるが、育児支援における父親の存在も重要であることから、父親のボンディングについても検討が必要であるが、これまでほとんど検討されてこなかった。そこで吉田和樹氏は、乳児健診を受診予定の児を持つ父親を対象に、ボンディングとその要因に関する質問紙調査を行った。赤ちゃんへの気持ち尺度（The mother-to-infant bonding scale: MIBS-J）を実施した結果、尺度は「怒り」と「低い愛情」の下位尺度に分類され、怒りには、仕事の量的負担及び気持ちの状態不良が、低い愛情には、父親の年齢、気持ちの状態不良、及び家庭問題人間関係が関連した。さらに、父親のボンディングは育児状況にも関連していた。

以上の結果が示すように、吉田和樹氏は乳児を持つ父親において、職場状況や家庭内の環境がボンディングに影響し、そのことが育児状況に影響することを明らかにした。これまで、父親のボンディングに関する報告はほとんどなく、新規性が高い研究であることに加え、父親の育児支援におけるボンディングの影響を明らかにすることにより、今後の父親の育児支援プログラムをより効果的なものにするための重要な知

見を得た研究である。本研究は、令和元年 6 月 18 日に開催された学位審査会において、研究内容が明確に示された。一方、論文の方法、及び結果解釈に若干の追加・修正が求められ、その後修正内容を確認した。これらのことから本研究は本学医学博士授与に値するものと判断できる。

論文審査委員	主査	大平 哲也
--------	----	-------

	副査	板垣 俊太郎
--	----	--------

	副査	各務 竹康
--	----	-------